

国際サーカス村通信	VOL13NO7	2009年4月13日(月)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688 mura@circus-mura.net http://www.circus-mura.net		

第6回ティニ・ティノ国際サーカスフェスティバル

文化教育機関NGO・PPS(ファーボンルーセルバック)が開催している国際サーカスフェスティバルも今年6回目となった。今回の開催が危うくなり、会員の方々始め多くの方々に支援をお願いして資金援助のご協力を仰ぎ、その甲斐もあって、開催にこぎつけることができたのは、素晴らしいことといえるだろう。その結果は、まだフェスティバルが終わったばかりなので報告を受けていないが、プノンペンにあるCCF(フランス文化センター)での公演やプノンペン市内のパレード、王宮前公園での公演、あるいはフェスティバル会場であるPPSへの入場をこれまですべて無料だったのを、アンチャン村民以外は有料にするなど、さまざまな手を打っていたので、その結果を聞くのが楽しみでもある。

今回は、このような状況にあったので、PPS側からの希望は積極的に受け入れ、サーカス学校の生徒2名(松本真理 鶴貞浩)及びクラウンのふくろこうじ氏と福岡からのボランティア参加の女子学生福田桃子君らが、当協会の会員であるとともにACCに勤める大野洋子女史の引率で、3月13日に早はやばやと旅立った。ワークショップさらにはできればPPSや他の参加者とフェスティバルで発表する作品をつくるという目論見で、早く来るようにとの要請があったからだ。残念ながら作品作りにはいたらなかったが、長期滞在でサーカス学校の生徒はいろいろと学ぶことがあったのではないかと思う。特に今回ドイツから参加していた、あのゴッシュ(1990年代前半ベルリンで人気絶大だった)で活躍していた美人姉妹のクリスキャッツや、そしてふくろこうじ氏からはさまざまな貴重なアドバイスをいただいたようである。そのアドバイスを生かすも殺すもまさしく本人次第なので、ぜひ、今回の貴重な体験を身のあるものにしてもらいたいと思う。

*

僕は3月23日に成田を立ち、プノンペンに一泊し、翌日バタンバンにはいった。というのも、16日がサーカス学校7年目後期の授業開始なので、学校を開けてから出発したかった。

PPSにつけば、先発組はすっかりカンボジアのサーカス学校の人々やボランティア活動をしているスタッフやすでに到着している海外からのアーティスト



たちに溶けこみ、お腹を壊したりしているものの、練習ができないというような状態ではないので一安心。洋子さんが虫に指されたのか、足首が大きく膨らんで痛みが激しく病院にいったという情報ももらっていて、そのことが気になっていたが、すでにその傷も治っていたので、ほっとする。

PPSに到着した時、門のすぐ横にある二階に事務所のある建物の一階で、プノンペンでのパレードの打合せが行なわれていた。到着したタイミングが良かったのか、丁度そのパレードの記録の話しをしていて、誰かスチールを取ってほしいと記録係のダン氏の発言があり、その役割が僕に回ってきた。それが皆への挨拶代り。

23日にバタンバンに入り、26日にもういちどプノンペンに出て、29日にバタンバンに戻るということになったが、その間は約300キロ。高速バスというか警笛バリバリの弾丸バスに乗って5時間前後なので、この往復はかなり神経に障るといえば障る移動なのだ。

*

フェスティバルは4月2日から5日の4日間。1日は前夜祭で、この夜、テントでは夏に新潟で行なわれる“大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009”に参加する『プンスマイル』の公演があった。以前見たときよりもこなれているというか、全体にまとまりが感じられ、いいショーになっていた。来日公演が楽しみだ(詳細は次号で)

わがサーカス学校のメンバーとふくろこうじ氏の公演は、鶴が野外のスモールステージで2回、真理が野外のトラス(空中ものができるセット)で1回、こうじ氏は野外でのスモール・ステージで2回、それにテントで“出口あり”本公演、同じくテントで沢入サーカス学校として鶴・真理のショーというものであった。そのほかに、こうじ氏と真理はプノンペンのCCF(フランス文化センター)での公演、さらにこう



じ氏と鶴は同じくブノンペンの王宮前公園の特設ステージのショーが組まれた。ブノンペンにしるバツタンバンにしるパレードは相当に体力を消耗するので、そのパレードをこなして、ショーというのは、過酷に思えたが、他の海外のアーティストといい、わがメンバーといい、それらをこなしたのはたいしたものであった。

それにしても、カンボジアの子供たちはいきがいいというか元気そのもので、真理のロープや鶴のスタッフの技をどんどん吸収してしまう。本気で覚え始めたら、たちまち鶴・真理のレベルに到達してしまうにちがいない。

*

PPSの40分以上ある、新しい作品を3本ほど見たが、ぼくにはもうひとつ納得できなかった。いわゆるサーカス・テクニクはどれもすごいが、彼らが重視している芸術的な側面といおうか、テーマの扱い方が十分にこなれていないように思えたのだ。これがカンボジアの若者、家族の姿であるというところをストレートに出している



のだろうが、そこで描かれる、たとえば暴力がストレートに、ただ暴力的でしかない動きに見えたのである。あるいは、暴力的な動きそのものに僕のほうが過敏に反応していたのかもしれない。というのも、いろいろな問題に目をつむれば、のほほんとして平和ボケしていられた日本の状況のなかで（昨今はそうでもないが、テレビなどは相変わらず

ずわいわいがやがやとタレント・お笑いのアホ番組を垂れ流している）ぼく自身の感性が、たとえば暴力といったものを受け止める強さを失って、子どもが暴力をふるわれている状景に泣きだすような、そんなヤワな感性を育ててしまっていたのかもしれない。そうであるとすれば、これは僕自身にとってかなり深刻な問題として受けとめる必要がありそうだ。

*

4月7日（火）無事、帰国。ボランティアで参加した福田桃子君、音響はじめ、みんなの世話と活躍していただき、ありがとう。

また、ティニ・ティノフェスティバルに支援金をお送りいただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

近いうちに、PPSから収支報告が来るとお思いますので、そのときに改めてご報告させていただきます。そしてこの経済的に苦しい状況は簡単に解決しないでしょうし、また来年には新しい問題も出てくるかとお思います。その折には、また皆様にご覧いただくを得ないと存じますので、その節はよろしくお願ひ申し上げます。

月例会

議 題 コルテオに参加して
報告者 ディミトリ・トゥキエフ&ボタコズ・バヤタノーバ
日 時 2009年4月23日(木) 18:45~21:00
場 所 千駄ヶ谷区民館
問合せ 03-3403-0561(ACC)

*今回は、現在、原宿オリンピック公園内のビッグテントで行なわれている『コルテオ』にアーティストとして参加している2名が話しをさせていただきます。ぜひ、多くの方がご参加して下さるようお願い申し上げます。

3月月例会報告 『東京・冬のサーカスを振り返る』

今年の冬の東京はサーカス盛り沢山。シルク・ドゥ・ソレイユの作品が二本、『ゼット』と『コルテオ』が上演中、フランスからは『ジングロ』が2回目の来日公演、さらには東京ドームでは『ニクーリンサーカス』も公演と、サーカスファンにはたまらない冬となった。そこで今回の例会では、気楽に感想を言い合うことに、まずは『ジングロ』から。

*

「面白かったですね、前作がチベットがテーマで、もちろん良かったのですが、なにか重苦しい感じがしましたが、今回は楽しかった。クマなんかもでてきましたよね」(上島由紀)「前回見れなくて悔しい思いをしたのですが、今回は見て良かった、馬がきれいだったし、音楽も良かったです」(大島幹雄)「音楽良かったですよね、バイオリンチームとブラスチームと2チームいましたが、ブラスチームが不良ぽくて良かった」(上島)「今日は参加できなかったのですが、大野さんが白い馬30頭一斉に並んだ時は綺麗で感動したっていっていましたが、映画『ジブシーの時』を思い出したとも」(安倍哉子)「でも高いよね」(西田敬一)。スポンサーだったエルメスのル・ステュディオで上映されていたバルタバス監督の映画『シャーマン』も話題にのぼった。「ロシア映画でしたね、全編ロシア語だったし、舞台もロシアだし、去年行ったヤクーツクのことが思い出されました」(大島)「この映画を見ると、何故バルタバスが前作でチベットをとりあげたかがよくわかりました」(上島)。

シルク・ドゥ・ソレイユの2作品について。上島さんは2本ともまだ見ておらず。参加者のなかで見たのは、2名だけ。「コルテオはいままでソレイユとは少し毛色がちがってました。出演者のなかのうちで呼んだ芸人さんがいたのですが(ちなみに次回の例会に特別に出席してくれる予定になっています)、彼らの話だと、ソレイユの中でもストーリー性をかなり明確にだしていることで、日本のお客さんがどんな反応なのか気にしていたみたいですね。小人が出てきたり、結構渋い芸が多かったような気がしました。「ゼット」はお客さんがどこから来るのかばかり気になってしまいました。個人的には男女ペアのアクロバットが好きでした」(大島)

西田さんはズバっと2作品を鋭く斬った。「『コルテオ』は世紀末のサーカスという感じがしました。イタリアの大衆芸をとりこんでましたよね。クラウンが死ぬ前に見た夢ということになってましたが、その意味でも『フェリーニの道化師』を思い浮かべるのですが、あれはクラウンへのオマージュです。それをひっくり返したのが『コルテオ』だったと思います。こっち側のサーカスじゃないんですよ。向こう側のサーカス。『ゼット』を見て

思い出したのはチャップリンの『モダンタイムス』。みんないい芸なんだけど、セットの機械がすごすぎて、それに使われている感じがしたのです。その意味では、『ニクーリンサーカス』が良かったです」(西田)

ということで話題は『ニクーリンサーカス』に移っていったのだが、これは出席者全員が見ていたということもあり、さまざまな感想がとびかった。

「熊とか犬とかロシアのサーカスらしいひとつひとつの番組はいいものが多かったですよね、ただ物足りなく感じたのは、演出の問題だったのではと思います」(大島)「音楽と衣裳がいまいちでしたね」(上島)「空間がつまらなかった」(辻)「オープニングがラートでしたが、あれはちょっと違うかな、つかみとしては弱かったですね、シングルトラペーズをもって来るべきではと思いました」(西田)「次の芸がハイワイヤーということもあったのですが、いきなりハイワイヤーというのもありじゃなかったと思います」(大島)。ではどんな番組が印象に残ったか？

「やっぱりシングルトラペーズだね」(西田)「クラウンが良かったと思いました」(上島)「あのクラウンと犬のショーの調教師は夫婦らしいですよ」(大島)「犬良かったですよ」(安倍)「ジャグリングがいまひとつだったですね」(西田)「彼ってプロテクターとかいろいろつけてましたよね、秋葉系みたいでしたね」(上島)「シベリアンアクロバットに出ていたふたりは一昨年リトルワールドにハットジャグリングで夫婦で出演していました。彼のお父さんがこのシベリアンアクロバットのリーダーをやっていたので出演してみたいです。彼は今回はジャグリングではなく一人相撲、奥さんはシベリアンハスキー犬の世話してました。ちなみにオープニングに出てきて「サーカスが街にやってきた」と言っていた少女は、彼らの娘でした」(大島)「一人相撲っていえば、昔モイセイエフ舞踊団の公演をみたのですが、その時にやっていた一人相撲凄かったですよ」(上島)話題は、入場料の高さについてへと。

「『ジングロ』とか見てしまうと、ニクーリンサーカスのセット自体がどうしてもちょっと感じがします、これで一万円というのはどうでしょう？」(安倍)「内容は動物ショーがあったり、完全に家族ぐるみで見る内容なのに、どうしてあんな値段設定にしまったのでしょうか、家族で見て、帰りになんか食べてという具合にはならないですよ」(大島)「銀座で一万円だったら納得するけど、例えば浅草で一万円って言われると、エーッて感じがしますよね、やっぱり高いチケットにはエレガントさが要求されるのではないのでしょうか」(上島)「都内でサーカスを意識した小屋なんて他にないわけですから、こういうところでサーカスが見れるということはとてもいいことなのですがね。がんばってもらいたいですね」(西田)

これだけ一流のサーカスが同じ時期に集まるというのもなかなかないこと、ただやはり入場料が当然のように1万円前後というようになっているので、一度に来られても財布の中身と相談しなくてはならないのが辛いのも事実。ニクーリンサーカスの話でもだが、ファミリー向けのものについては料金設定を少し考えてもらいたい。(大島幹雄 記)
出席者：安倍哉子、大島幹雄、上島由紀、辻卓也、西田敬一(五十音順 敬称略)

各サーカス団コース

木下大サーカス

小倉公演 2009年4月25日(土)~6月30日(火)

休演日 毎週木曜日と5月13日(水)、6月10日(水)

会場; JR小倉駅北口特設会場(西日本総合展示場西隣り)

電話; 093-531-0117

キグレサーカス

長野公演 3月20日(金)~5月24日(日)

休演日 毎週木曜日

会場: しなの鉄道千曲駅西側特設会場

電話: 026-285-0488

ポップサーカス

新潟公演 2009年3月14日(土)~2009年5月17日(日)

休演日: 毎週木曜日 会場: 新潟市万代島特設大テント会場(ときメッセ近く)

電話: 025-247-0071

庄内公園 7月18日~8月30日

休演日 水曜日及び8月11日(火)

会場: イオン三川ショッピングセンター駐車場内特設大テント会場

電話: 0235-68-2082

シルク・ドゥ・ソレイユ「CORTEO コルテオ」

2月4日(水)~5月5日(祝)

会場: 原宿・新ビッグトップ インフォメーションデスク 03-5237-7120

スーパーエアリアルサーカス

3月20日(金)~6月21日(日)

会場: 愛知県犬山市・野外民族博物館リトルワールド

休演日: 火曜日(祝日の場合は次の日)

第五回東京国際フール祭

6月8日(月)~14日(日)

東京両国・シアターX

電話: 03-3403-0451